



表紙写真説明：釈迦如来坐像（飛鳥あんごいん安居院）

飛鳥大佛として知られる飛鳥寺（安居院）の釈迦如来坐像は、中国蘭州の炳靈寺で感動した北魏佛に似た面影を有する、鞍作止利作と伝えられる丈六の堂々たる銅造鍍金像である。鎌倉時代初期の雷火で焼け落ち、当初の部分は頬の上半分から額にかけてと右手指3本だけとされる。飛鳥は渡来人の里らしく解放的で、堂内の写真撮影は自由である。今回は、創建当時のままとされる頬から額にかけての部分強調して撮影した。医学生時代には怪異と思えた相好も、40年を経た今回は、威厳に満ちた慈顔と感ぜられた。歳月が人間の心境変化に及ぼす影響を見極めるべく、今後も、中国・日本の古寺巡りを続けていきたいと考えている。

福井市 吉村 信

## 杉田玄白賞というもの

小浜市医師会長 木 村 浩 三



杉田玄白の「解体新書」「蘭学事始」は、今日その内容はともかく、その名を知らない人が少ない位の有名な書籍である。

「形影夜話」その本の名は、去年5月、福井大学医学部第二内科の栗山勝教授に講演に来て頂いた際、初めて耳にし、今更ながら、浅学の自分に恥じ入った次第である。懇意にしている図書館長に依頼し、その好意で貴重な文献のコピーを栗山教授に送ったところ、非常に感謝されて、学生の講義にその一端を紹介したいとのことであった。

「形影夜話」-自分の影との対話-は、蘭学事始の稿が成る5年前にできた。対話という特殊な形式で、医学・医術についての自分の見識、信念を誠実に、徹底的にかつ論理的に書かれている。原本は、句読点も濁点もなく、現代人では読解し難い。『日本の名著(第22巻)中央公論、昭和46年4月に緒方富雄氏の訳注として現代諸訳があり、その後医薬出版から単行本として「形影夜話」が出版されている。

いささか長くなったが、ここまでが序文で本文に入る。

若狭小浜は、食まし國として食育文化都市を宣言して、市制55年、食のまちづくり条例制定5周年を迎え、杉田玄白賞も回を重ねて、5回目を迎えようとしている。

- 日本ではじめて象が来たまちです-
- 水と魚や野菜が一番うまいまちです-
- 京や奈良の都へ文化を伝えたまちです-
- 時代の先覚者をたくさん生み出したまちです-

小浜市民憲章は、このような書き出しで始まっている。私が所属する小浜市教育委員会の教育憲章にも、食育文化都市にふさわしいという文面が加えられている。

さて、ここからが本稿の主目的である。“杉田玄白賞”は、2004年から全国から杉田玄白の“医食同源”(養生七不可)の理念を根源として、

1. 食と医療に関する進歩的な研究・取組を行い実績をあげている方。
2. 健康増進に寄与する進歩的な研究・取組を行い実績をあげている方。

3. 健康日本21の栄養・食生活に基づき実績をあげている団体。

上記のテーマを対象として、種々の分野からの応募を募っている。

選考委員として、元福井医大長須藤正克氏を長に、東京医科歯科大学河原和夫教授、医事評論家行天良雄氏、地元を代表し、副市長、小浜病院長、小浜市教育長、小浜市医師会長が名を連ねている。

第1回受賞者は、宮崎市の管理栄養士黒田留美子氏の“高齢者ソフトメニューの開発”。

第2回受賞者は、WHO循環器疾患予防国際共同研究センター長の家森幸男氏の栄養(食事)により遺伝子の支配を克服して病気の予防が可能であり、日本食が世界の健康に大きく貢献しうることを示された論文。

第3回受賞者は、東京都青梅市の元市長で、青梅市観光協会会長田辺栄吉氏の杉田玄白並びにシーボルトの業績研究や医跡を探索し、江戸以降の蘭学の歴史探求の業績に対して。

第4回受賞者は、名古屋市立大学郡健二郎教授の“尿路結石の発生機序の解明と食生活改善による予防”として、尿路結石は生活習慣病のひとつであると結論された論文。

以上の受賞者は、杉田玄白、中川淳庵顕彰祭の会場で授賞され、参集した大勢の市民に受賞講演を通じて多大な感銘を与えている。

郷土の偉人杉田玄白の業績を称え、その遺徳を伝えるのは、当地に住む住民の一人としての責務であると思ひ、この与えられた機会に一文を寄稿した次第である。

この賞は、まだ成立して間もないものであるが、その主旨に賛同され、多数の応募者が競って業績を披露され、偉大な先人の功績を伝承するに相応しいものになり、さらには年を重ねる毎に充実し、権威あるものになることを祈念してこの稿を終えたい。

応募要項等は、小浜市企画調整課世界遺産推進室まで。

TEL 0770-53-1111(内線442)

E-MAIL rekishi@ht.city.obama.fukui.jp